

2022年度 事業報告

1. 2022年度主要事業の進捗状況

1) 法人本部機能の強化

整備した組織体制を軸とし、経営基盤の安定化を進めた。

2) 働き方改革と魅力ある職場作り

法改正への対応を進めるとともに、働きやすい職場環境の実現に向けた諸規定の見直しを進めた。

3) 人材確保対策

ホームページ、求人サイト等のツールを活用した情報発信の充実を進めた。

4) 新規事業

障がい事業の安定した運営のために新規顧客の確保対策を進めた。また、地域ニーズの解決及び新規顧客確保の対策として、相談支援事業を新規開設した。

5) リスクマネジメント

新型コロナウイルス、大規模地震等のリスクへの備え、BCP作成等を進めた。

6) 地域連携

コロナ禍でも出来る範囲で地域貢献を進めた。また、中野会との法人間連携を深めた。

2. 事業所別報告(実績・課題)

1) 特別養護老人ホーム瑞光の里

- ・【本館平均人数】特養 85.0 人、ショート 24.2 人であった。(目標:特養 88.5 人、ショート 20 人)
- ・【別館平均人数】特養 38.7 人であった。(目標:特養 39.5 人)
- ・【平均介護度】本館 4.1、別館 3.9 であった。(目標:本館 3.9、別館 3.9)
- ・介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算:50 人、目標:50 人)
- ・認知症介護実践リーダーやユニットリーダー資格の取得を進めた。
- ・ショートステイ緊急受け入れ体制を強化した。(対象問わず、措置入所を含む)
- ・接遇(臭い対策や言葉使い)を意識し、サービスの質の向上に努めた。
- ・ZOOM を活用したボランティアとのレクリエーション等を積極的に開催した。
- ・地域からも信頼される施設運営を目指し、介護予防・生活支援協議会等へ参加し、地域ニーズを共有した。
- ・研修や会議等、ZOOM を活用し、実習指導者研修や介護職員等によるたん吸引研修の受講を進めた。
- ・委員会やプリセプター制度等を通じて、新人教育や職員教育の充実を図った。

2) 瑞光の里指定居宅介護支援事業所

- ・【平均人数】介護給付 127.8 人、予防給付 24 人であった。(目標:介護 136 人、予防 48 人)
- ・各ケースの情報を共有し、担当不在時にも迅速に対応ができる仕組み作りを進めた。
- ・半田市高齢介護課や半田市包括支援センターとの連携会議、半田市居宅介護支援事業所勉強会などへの参加を通じて地域包括ケアに取り組んだ。
- ・情報伝達会議等を開催し、居宅内のマネジメント力の向上や改善策を話し合い働きやすい環境作りに努めた。
- ・他法人との合同事例検討会を継続的に開催し、サービス提供等の質向上に努めた。
- ・介護支援専門員の年間研修計画等の策定と実施状況を確認した。
- ・半田市包括支援センター、半田養護老人ホーム Link などからの処遇困難事例を積極的に受け入れた。
- ・介護支援専門員実務研修実習受入体制を継続した。
- ・法人内の相談員と協力し問題解決に努め、お互いの関係を強化した。
- ・特定事業所加算Ⅱの算定を継続した。

3) 特別養護老人ホーム第二瑞光の里

- ・【平均人数】特養 84.1 人、ショート 11.6 人であった。(目標:特養 87 人、ショート 11 人)
- ・【平均介護度】4.3 であった。(目標:4.0)
- ・介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算 53.3 人 目標:50 人)
- ・役職育成に注力し役職者が中心となったチーム形成に努めた。
- ・専門職としての役割理解を深め各部署でサービスの質向上に努めた。
- ・『利用者ファースト』を施設方針に掲げ共通テーマとして一年を通じて取り組みを行った。
- ・『地域最後の拠り所』に相応しい事業所運営に努めた。
- ・コロナ禍ではあったが可能な限り地域交流の機会を増やし施設と地域の繋がりを深めた。

4) デイサービスセンター第二瑞光の里

- ・【平均人数】26.2 人であった。(目標 28 人)
- ・介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算 13.8 人 目標:12 人)
- ・『ニーズに応える』を事業所テーマとして顧客満足度の向上に努めた。
- ・個別機能訓練を継続実施し質の向上に努めた。
- ・法人連携を強化し利用者中心のサービス提供を実施した。
- ・同業他社を意識して特色を明確にするべく取り組んだ。
- ・予防介護利用者へのサービス提供体制を強化した。

5) 半田養護老人ホームLink

- ・【平均人数】49.3 人であった。(目標:48 人)
- ・一般型特定施設開設に向けて情報収集と検討を実施した。
- ・福祉の専門職スキルを向上させ支援員としての質を向上した。
- ・養護老人ホームの制度理解を深めた。
- ・法人内の連携強化に努め入居者の処遇改善に繋げた。
- ・時代に合わせた処遇を意識して利用者対応を実施した。

6) 特別養護老人ホーム瑞光の里 緑ヶ丘

- ・【平均人数】特養 91.1 人、ショート 22.3 人であった。(目標:特養 97 人、ショート 19 人)
- ・【平均介護度】4.1 であった。(目標:4.1)
- ・介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算:42.9 人、目標:45 人)
- ・困難事例などを通じてチームケアに全集中した。
- ・事業所を取り巻く環境や変化を理解し、柔軟に対応できる体制を整えた。
- ・役職者教育、職員教育を実践し、サービスの質の向上に努めた。
- ・共生型短期入所サービスを開始し、地域ニーズに応えるよう努めた。
- ・ZOOM を活用し、介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に進めた。
- ・困難事例と向き合い、地域から頼られる施設を目指して実践した。
- ・職員研修などを通じて職員の顧客意識を向上させ、接遇力向上に努めた。
- ・実習生の受け入れを通じて日本福祉大学半田キャンパスとの交流を進め、連携を深めた。
- ・ユニットリーダー実地研修施設として実習生の受け入れを行い、福祉人材の育成に努めた。

7) 障がい支援事業障がい支援課

- ・事業運営の安定化(人材定着、利用者確保)を最優先課題とし、黒字化を目指した。職員定着については一部の専門職員の確保に苦戦をしており、利用者確保は各事業で一部課題が残っている。

- ・「相談支援ずいこう」を9月に開所した。基幹相談センターへの出向を実施し、相談員2名体制で運営している。
- ・「グループホームずいこう(仮称)」開設に向けて、「放課後等デイサービスずいこう」「生活介護ずいこう」の移転先について検討を進めたが、現時点では有力情報は見つかっておらず、情報集に継続的に努めている。
- ・就労継続支援A型、児童発達支援等の他新規事業についても情報収集を進めている。

3. 研修、委員会活動

1) 研修活動

①施設内研修

研修名	研修内容	研修実施月
事故防止対策	・事故防止の考え方 ・KYT 訓練	6月・12月
地震防災訓練 事業継続計画	・初動避難訓練 ・非常食、災害用物品使用訓練 ・安否確認訓練	4月・5月・7月 10月・1月
火災避難訓練	・初期消火と避難誘導(日中夜間想定) ・災害時の職員連携と避難誘導	6月・11月
救命訓練	・救急要請と心肺蘇生法訓練	10月
感染対策	・ガウンテクニック訓練 ・食中毒予防	5月・8月 11月・1月
褥瘡対策	・褥瘡予防の体位変換、除圧訓練	11月
身体拘束廃止	・感染症発生時の予防における身体拘束手順 ・身体拘束防止	9月・3月
虐待防止	・高齢者虐待防止、不適切ケア廃止 ・認知症の理解	6月・12月
看取りケア	・看取りへの理解 ・家族支援	9月・3月
介護技術	・福祉用具の使用方法	2月
環境改善・接遇マナー	・接遇マナー、言葉遣い	10月
新入職員研修	・法人理念、就業規則、コンプライアンス等の理解	入職時
プリセプターシップ	・業務理解と技術習得	入職から半年
育成プロジェクト	・リーダーシップ力向上	随時
ケアの質の向上	・個別ケアの理解	毎月
ユニットケア推進	・ユニットリーダー研修受け入れ体制整備	毎月

②施設外研修

- ・外部研修を積極的に受け、専門知識や技術の向上を図った。
- ・個人で参加した研修の内容等は施設内研修会で情報を共有した。
- ・委員は専門分野のWeb研修等に積極的に参加し、知識を深めた。
- ・知識や技術向上のため外部から専門講師を招き勉強会を行った。(排泄ケア)
- ・喀痰吸引等研修、ユニットリーダー研修、認知症実践リーダー研修を受講した。

2) 委員会活動(毎月1回、状況により随時開催)

①リスクマネジメント委員会【事故防止対策委員会】

- ・事故、アクシデント、インシデントデータの分析を行い、介護現場にフィードバックした。

- ・事故発生時の緊急会議の開催および事故分析を現場職員と共に行い、再発防止に取り組んだ。
- ・事故防止に対する啓発活動および知識向上のための訓練を行った。
- ・アクシデント等のデータ集計を効率的に行えるように見直しを行った。
- ・インシデント強化のためのシステム作りと要因分析を行った。
- ・リスクマネジメントに関する知識を増やし、委員会や現場にフィードバックできる体制づくりを行った。
- ・喀痰吸引等の事故報告、リスク予防の取り組みを行った。(喀痰吸引等特定行為の安全委員会)
- ・施設内外の行方不明防止対策の検討を行った。

②レスキュー委員会

- ・定期的に訓練を計画、実施し、振り返り評価を行った。(消防、救急救命、地震等)
- ・各種マニュアルの見直しを行い、職員へ周知した。
- ・職員個々の防災意識を強化できるよう働きかけた。
- ・非常時に使用する物品管理を継続して行った。
- ・BCP(事業継続計画)に関する様々な知識を深めた。

③メディカル委員会【感染対策、褥瘡予防対策、身体拘束検討委員会】

- ・各種感染症マニュアルの見直しと改訂、周知を行った。
- ・感染症に関する物品の管理を行った。
- ・感染症流行時期に合わせた勉強会の開催、シミュレーションを行い、マニュアルの周知徹底を図った。
- ・褥瘡の対応、予防のために使用する介護用品の管理を行った。
- ・褥瘡対策検討会を実施し、早期治癒、再発防止に努めた。
- ・感染症発生時の予防における身体拘束手順の周知徹底を図った。
- ・委員会内で身体拘束の件数・内容を共有した。
- ・身体拘束廃止に向けて取り組み、感染症発生時を除いては身体拘束ゼロを維持した。

④認知症ケア委員会【虐待防止委員会】

- ・認知症やBPSDについての勉強会を行った。
- ・ユマニチュード技法の普及活動を行った。(瑞光の里)
- ・虐待の手前にあたる「不適切ケア」改善に向けての取り組みを行った。

⑤看取りケア委員会

- ・終末期を迎える入居者・家族に対し、より良いケアの提供と精神的な関わりが持てるよう努めた。
- ・家族の支援方法について検討した。
- ・死生観教育を通して看取りケアの質の向上を図った。
- ・職員の精神的安定が図れる体制づくりを行った。

⑥介護技術向上委員会

- ・個別援助技術の向上につながる取り組みを行った。
- ・福祉用具の用途を知り、移乗や安楽な体位変換について周知を行った。
- ・ポジショニング、シーティング技術の向上を図った。
- ・介護職員の腰痛予防にも配慮した技術の周知を行った。
- ・歯科と連携し口腔ケア技術の向上に努めた。
- ・排泄介助の見直しを行った。

⑦改善委員会

- ・法人理念の周知を行った。
- ・5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)活動を行い、生活環境改善に努めた。
- ・接遇マナーの啓発活動を行った。
- ・日頃の言葉遣いを振り返り、コミュニケーション技術の向上に努めた。

4. 会議開催等

会議等	開催年月日	概要
監事監査	2022年5月24日	2021年度年事業報告及び決算について
理事会 (4回開催) ※書面による決議	2022年6月1日	2021年度年事業報告及び決算について 経理規程の一部改定について 2022年度定時評議員会の開催について
	2022年9月2日※	2022年度第1次補正予算案について
	2022年12月26日※	2022年度第3回評議員会の開催について
	2023年3月22日	2022年度第2次補正予算案について 2023年度事業計画及び収支予算案について 法人本部財務次長及びLink所長の選任について パート就業規則の一部改定について 評議員の人選について
評議員会 (3回開催) ※書面による決議	2022年4月8日※	定款の変更について
	2022年6月22日	2021年度年決算について
	2023年1月5日※	定款の変更について
評議員選任・解任委員会	2023年3月24日	評議員の選任について
その他定例会議	月1回	経営会議
		法人本部会議
		施設会議
		全体会議
		各部署会議
		衛生委員会
		その他
監査	瑞光の里 2022年9月30日	介護保険監査(実地)
	第二瑞光の里 2022年7月27日	介護保険監査(実地)

以上